〔日本家族看護学会 委員会活動報告〕

香港における家族看護学の現状・課題と国際交流の推進

Sharron SK Leung[1)]　法橋　尚宏[2)]　小林　京子[2)]　河原　宣子[3)]　永冨　宏明[2)]

Ⅰ．はじめに

現任の日本家族看護学会国際交流委員会では，とくにアジア圏において家族看護学関係者との交流を推進する活動を行っている．平成19年度には，アジア諸国における家族看護学の教育・実践・研究に関する質問紙調査を行い，その実態を明らかにする試みを行った．平成20年度には，日本家族看護学会第15回学術集会を国際交流の場とし，香港大学のSharron Leung博士を招聘した．そして，中華人民共和国香港特別行政区（以下，香港）での家族看護学の現状と課題を共有することを目的とした交流セッションを開催した．本稿では，交流セッションの内容を報告するとともに，今後の国際交流委員会の活動を検討する．

Ⅱ．交流セッションの概要

1．Leung博士について

Leung博士は，1985年に看護師免許を取得し，現在は香港大学のAssistant Professorとして活躍している（図1）．さまざまな役職を兼任されており，2006年からは香港看護フォーラムの理事を担当している．子どもを新しく迎える家族に関する研究をしており，香港大学の学部・修士課程でカルガリー家族アセスメントモデル・介入モデルを教授している．

2．香港における家族看護学の現状・課題

1）香港の一般情報と香港人にとっての家族

香港は，1,104平方キロメートルの国土をもち，人口696万人で，その95％が中華人民共和国の国籍である．世帯数は225万で，核家族が多く，平均世帯人員は3人である．高齢化が進んでおり，年少人口は減少している（いずれも2007年現在）．

2）香港のヘルスケアシステム

香港のヘルスケアシステムは，私立部門と公立部門に分けられる．2007年現在，香港の病院施設状況（病床数）は，公立病院2万7,784床，私立病院3,438床，その他3,706床である．

私立部門は，第2次および第3次ヘルスケアの提供を使命としており，香港での外来診療の90％以上を担っている．一方，公立部門は，保健省（Department of Health）と医療管理局（Hospital Authority）から成り，包括的で基本的な公衆衛生プログラムを展開している．保健省は政府機関のひとつで，住民に健康増進と疾病予防サービスを提供している．保健省は，31箇所の母子健康センターと3箇所の女性保健センターを運営している．それらの役割は，公衆衛生機能を提供することで，具体的には，a）疾病のサーベイランス，b）伝染性疾患のコントロール，c）公衆衛生に関係する資格の交付，d）港湾保健対策，e）たばこの規制などを行っている．また，医療管理局は，医療管理局法のもとに1990年に設立された国家機関で，香港のすべての公立病院を管轄している（医療管理局の管轄下には，本部，41箇所の病院，48箇所の専門外来診療所，75箇所の一般外来診療所がある）．これらの役割は，a）公立病院利用者のニーズを満たし，利用者の利益となる病院環境・ケアを整えること，b）病院でのサービスに対する適正料金に関する政府への提言，c）病院スタッフへのやりがいのある仕事と教育の提供，d）ヘルスケアに関連するさまざまな機関・団体との協働，e）公立病院開設などである．

1)香港大学李嘉誠醫学院　2)神戸大学大学院保健学研究科
3)京都橘大学看護学部

3）香港のファミリーヘルスサービス

2008年6月に香港のヘルスケア改善協議会は，家族や地域におけるケアのサービスを強調することを宣言している．ファミリーヘルスサービスは健康増進と疾病予防を目指し，保健省が5歳以下の子どもと64歳以下の女性を対象として提供しており，インターネットによる情報提供も行っている．ファミリーヘルスサービスには，母子健康センターで行われる子どもの健康，ペアレンティングプログラム，公立病院の周産期部門での産前・産後ケア，その他として家族計画，不妊カウンセリング，子宮頸癌検診，64歳以下の女性対象のヘルスプロモーションなどがある．

4）香港大学における家族看護学教育

香港大学の家族看護学コースには，全日制および就業しながらの看護学学士コース，正看護師（Registered Nurse）を対象とした看護学修士コースがある．これらのコースは合計20時間（講義6回，個別指導4回）で構成し，家族の概念を理解すること，家族にカルガリー家族アセスメント・介入モデルを適用して家族看護のスキルを実践すること，家族の健康と病気との相互作用を分析すること，香港の家族の健康に影響を与える社会・政治・経済的問題を理解することを目標にしている．「15分以内でできる家族インタビュー」を演習し，これをＤＶＤに録画してレポートを作成し，これらから評価を行っている．このコースを修了した学生は，このコースでの学びが臨床で応用できると評価しており，家族看護の有用性を理解できるようになっている．

5）香港大学における家族看護学実践

家族看護の実践能力を発展させるために，キャッスルピーク病院（青山醫院）において110人の精神看護師とともに家族看護の実践プロジェクトを行っている．プロジェクト開始にあたって，事前調査として家族への看護の実態とニーズを調査した．その結果，家族への看護が十分には行われていないこと，看護師が家族への看護をどのように行うべきかがわからないことが明らかになった．これを受けて，看護師向けの教育セミナーを開催し，その効果として看護師がケアプランに家族看護を含めることに自信を持てるようになったこと，家族への介入モデルを使用することで，家族のダイナミクスと相互作用の理解が促されるということを実感できるようになった．

図1．プレゼンテーション中のSharron Leung博士

6）香港大学における家族看護学研究

香港大学は，保健省または非政府機関（香港競馬クラブ）と協働で6つのプロジェクトを行っており，香港の家族の幸福と健康で調和のとれた家族を構築することを目的としている．具体的には，両親と子どもの間（両親と思春期の子ども，両親と祖父母）に生じる確執を解決するスキルを家族が習得すること，両親と子どもの間の理解を促進することである．これは，両親と子どもという二世代間の問題に介入することから，世代間プロジェクトとよんでいる．両親と子どもの世代間プロジェクトでは，家族から巣立っていくという移行期にある思春期の子どもと両親との間の確執を解決することを目標として，互いのコミュニケーションの促進を行う．両親と祖父母の世代間のプロジェクトでは，新しく新生児が家族に加わるという移行期にある家族の両親と祖父母に生じる確執を解決するためのコミュニケーションスキルを促進することで，家族が合意しながら子育ての計画を立てることができることを目指す．このプロジェクトでは，妊娠期の両親と祖父母，産後の両親と祖父母，さらにソーシャルワーカーと看護師で構成されたフォーカスグループインタビューでアセスメントを行う．

図2．タイ王国での国際交流活動

III．日本家族看護学会国際交流委員会の今後の活動

この交流セッションは，アジア圏での家族看護学のネットワーク構築に向けた活動の一環として計画し，香港大学の活動をとおして香港での家族看護の教育・実践・研究の実情を紹介してもらった．交流セッションの中で，Leung博士は「香港では，家族看護学は誕生したばかりです」と述べられており，香港での家族看護学は黎明期にあるといえる．

一方，わが国の家族看護学教育の現状[1)]をみると，家族看護を専門とする教員は7％に過ぎないことが報告されており，さらなる家族看護学教育の充実や発展が望まれる．実践については，わが国では平成20年度に家族支援専門看護師がようやく誕生することを契機として，さらに発展することが予想される．ただし，スペシャリストの実践に限らず，さまざまな場で家族看護が認知され，ジェネラリストによって実践されるための方略が課題となろう．

さらに，研究については，香港には家族看護に特化した学会は存在せず，日本家族看護学会国際交流委員会が実施した質問紙調査では他のアジア諸国においても家族看護に特化した学会がないことが明らかになっている．約15年前に設立され，1,000人を越える会員を抱える日本家族看護学会は，とくに家族看護がこれから発展するアジア諸国において，国際交流を推進するリーダー的な役割を担う必要があると考えられる（図2）．

文　献

1）小林奈美，山本真梨子，冨貴田景子，他：看護教育を行う専門学校・短大・大学における家族看護教育の実態―関連科目担当教員に対するアンケート調査より―，家族看護学研究，14（2）：93，2008